

【自由研究発表第4セッション 12月7日 13:00-13:35 C会場 632教室】

インドネシアにおける刑事司法改革に関する一考察

修復的司法の導入をめぐる議論から

神内 陽子
(名古屋大学)

近年インドネシアでは、従来の近代的な裁判制度に対するオルタナティブ・アプローチとして、犯罪や非行を人々および、その関係の侵害と捉えたうえで、被害者、加害者、コミュニティのメンバーら当事者間の対話を通じた関係性の修復を目指す修復的司法 (Restorative Justice/Keadilan Restoratif) の導入が進められている。具体的には2012年少年刑事司法制度法 (UU SPPA) により、ダイバージョン (通常の裁判手続きからの離脱) の基礎として初めて修復的司法が採用されたことに続き、2020-2024年国家中期開発計画 (RPJMN) が修復的司法の導入を司法制度改革の政策戦略の一つに掲げたことを受け、2020年代以降は関係機関の訓令や決定に基づき、一定の条件を満たす成人事件にも修復的司法が適用されている。さらに2023年1月の改正刑法 (KUHP) は「修復」の語こそ用いていないものの、実質的には応報的司法から修復的司法へのパラダイム転換を図っており、これと前後して政治・法務・治安調整省下に「修復的司法作業チーム」が結成されるなど、3年後の法施行に向けて準備が進められている。

本報告では2010年代以降の関連諸法令を検討したうえで、刑法改正にともなって活発化している修復的司法の導入をめぐる議論の内容とその論点を、2022年11月に開催された「修復的司法ナショナル・カンファレンス (Konferensi Nasional Keadilan Restoratif) (2022.11.1-2, Hotel Aryaduta Jakarta) をはじめとする会議の録画記録や、メディアによる関係者へのインタビュー動画などに基づき分析する。分析の結果として、①これまで成人事件に関しては警察、検察、裁判所がそれぞれの内部規則に基づき修復的司法を実践してきたことから、今後は定義や目的に関する共通の理解と包括的な制度構築が課題とされていること、②具体的な制度設計にあたっては、政府側が、当事者間の合意成立をもって裁判手続きを打ち切ることにより刑事施設の過剰収容問題の解決に繋がりたいとするのに対し、最高裁は修復的司法の結果は裁判プロセスに影響を与えるべきではないとするなど、立場の相違があること、③修復的司法の理念自体は各アダット (慣習) 共同体のもつ問題解決法の中にすでに内包されているとみなされており、実際にこれを刑事司法制度の中にどのように位置づけて活用するかが模索されていること、などを示す。

<動画資料 (一部) >

Institute for Criminal Justice Reform 2022.11.1. *Pembaruan Hukum Pidana di Indonesia dengan Keadilan Restoratif* [修復的司法によるインドネシアの刑法改革]. <https://www.youtube.com/live/c-jrK8oaB8g?si=FaP85t7jEnTCNSJ9>. (2024年11月5日最終閲覧)

【自由研究発表第4セッション 12月7日 13:40-14:15 C会場 632教室】

親密圏と公共圏を架橋する「つくられた伝統」

インドネシアの地域住民が持つ政治参加信念としてのムシャワラとゴトンロヨンに着目して

大庭フランシス光瑠

(広島大学・博士課程/日本学術振興会)

本発表はインドネシア独立当時から指導者たちによって喧伝されてきた「インドネシアの伝統」が、いかに地域住民の政治へのインフォーマルな関与を促すのか、伝統的価値として地域住民に受け入れられている「ムシャワラ(全会一致の精神)」と「ゴトンロヨン(相互扶助)」に着目して追求する。

オルデンバーグ(1989)は、カフェや図書館をはじめとする、社会的目的のない憩いの場所での市民同士のインフォーマルな公共生活の重要性を説き、そのうえでアメリカなど先進国における都市の成長と開発はこのインフォーマルな公共生活の提供を疎かにし、それによって民主主義の草の根は弱まっていることを指摘している。本発表の発表者はこれまでの研究で、インドネシアの都市部住民たちがコーヒーやたばこを手にカフェやレストランはもちろん、公園や道端の地べたで家族同士や友人同士が時間を過ごす「ノンクロン(だべる・たむろする)」という文化に着目し、そのインフォーマルな会話の中で住民たちの政治的意見が生まれる素地があるとして研究してきた。本発表はこのノンクロンのような「親密圏」が、地方政治や自治コミュニティという公共圏とどのような接続を持つのか検討することが目的である。

小林(2004)が示したように、インドネシアの創成期に多様性を有するインドネシアにおいて社会を構築するための礎としてゴトンロヨンなどの「伝統的価値」がうみだされた。Masri(2021)は、ムシャワラは住民を熟議型民主主義へと駆り立てる理念であるとし、さらにこの理念がジャワ的価値とムスリムの価値が結びついたものであるからこそ住民に広く受け入れられていることを示した。

本研究は①地方自治首長への民意の取り上げ方に関するインタビュー、②地域行事への住民参画のあり方に関する参与観察を通じて、伝統的価値が住民の社会形成や政治参加の後押しとなっていること、そしてムシャワラやゴトンロヨンなどの伝統によってハーバーマスがいうところの「親密圏」と「公共圏」がインドネシアにおいては強く結びついていることを示す。首長はムシャワラに基づいて住民の声を集めるべく声を届ける機会や場所を提供しているが、一方で住民は議会議員との個人的・地域的なつながりのもとでインフォーマルに議論する場を持っている。地域行事への住民参加はゴトンロヨンのもとに行われ、相互扶助に関わることが社会やコミュニティでのメンバーシップの礎となっており、ゴトンロヨンは制度的社会保障の代替ともいえる。伝統として浸透した価値観は住民の政治参加・社会形成に大きく貢献するが、一方でコミュニティの外と内を規定するものでもあり、コミュニティの内側に入れるものしか社会や政治に参加できないという意味でインドネシアの地域社会における親密圏と公共圏は結びついている。

【自由研究発表第4セッション 12月7日 14:20-14:55 C会場 632教室】

リベラル派イスラム思想の展開と「インドネシア女性ウラマー会議 (KUPI)」

大形 里美

(九州国際大学)

本報告は、インドネシアにおいて近年活発化している「ジェンダー平等を目指すイスラム法学」の議論に注目し、その中心的存在である「インドネシア女性ウラマー会議 (KUPI)」の誕生と発展の経緯、意義について明らかにすることを目的とする。KUPI は 2017 年と 2022 年に会議が開催され、今後も継続的に開催される予定である。この会議は、リベラル派イスラム思想の中で生まれた新しい運動であり、既存のイスラム法学にジェンダー平等の視点を取り入れる革新的な試みとして注目されている。

従来の研究(野中 2020、見市 2020)では、KUPI とリベラル派イスラム思想の繋がりや KUPI の組織構造について十分に解明されていない。本報告では、KUPI が単なる組織ではなく、正義を求める運動体であり、多様な視点を融合する場として機能していることを示す。KUPI は特定のリーダーに依存せず、インドネシアの様々なイスラム組織や思想を包括し、協力し合うことで成立している。その中心人物であるフセイン・ムハンマド (Husein Muhammad) が、組織・個人を束ねて同活動を推進している点も重要である。

KUPI の運営には複数の組織間の協力が不可欠である。第1回会議は4つの組織により、第2回会議以降は5つの共同運営組織により運営され、それぞれの組織はフセイン・ムハンマドの弟子や彼が設立した「キタブ・クニン研究フォーラム (FK3)」の元メンバーらが中心となっている。各組織は人的ネットワークで深く結びつき、相互補完的な役割を担っている。特に、KUPI の一部であり家族法の研究を担当する ALIMAT は、KUPI の「頭脳」として重要な役割を果たしている。

インドネシアにおけるイスラム学者の革新的な取り組みは、イスラム世界全体においても注目を集めている。インドネシアでは1970年代からイスラム国家の設立を否定するリベラル派イスラム思想が台頭し、1990年代半ばからは、女性の課題に対する文脈的解釈を用いたアプローチが取られ、ジェンダー平等の視点から新たなイスラム女性法学の構築が進んできた。その中心にはフセイン・ムハンマドが存在し、彼の指導のもとで発展したジェンダー平等を目指すイスラム女性法学の言説は、世俗派女性組織の活動を思想・言説面で支え、共闘する新たな展開を見せている。フセイン・ムハンマドの言説が保守派勢力と闘う際の彼女らの武器となっている。こうした流れを背景に、女性問題に取り組むイスラム学者は増え続け、2017年と2022年にはKUPIが開催され、伝統派と近代派の垣根を越えた学者たちの協力が見られるようになった。

現在、KUPI やその一部である ALIMAT は、マレーシアの Sisters in Islam やその国際的運動体 MUSAWAH と連携し、国際的なイスラム改革運動においても思想面での裏打ちとして重要な役割を果たしている。「イスラーム法は、もはや法学者という専門家にのみ独占されたものではなくなった」と述べる研究者もいるが、イスラム世界の社会改革にはイスラム法学者らの言説が依然として欠かせない。KUPI の重要性はまさにそこにある。このようにして KUPI はインドネシア国内にとどまらず、世界に向けて影響力を拡大している。